

先生なら、 どうしますか？

教師は、生徒の「どうあるべきか、どう生きていくか」という答えが1つではない問いに、生徒とともに日々向き合う。教師としての指導観を問われた「あの瞬間」を、当事者の教師が振り返る。

「東大を目指さない？」
安易に提案した担任の私に、
生徒が返した想定外の質問

岩手県立水沢高校
佐藤 紘大

さとう・こうだい ● 同校に赴任して4年目。数学科。
生徒の主体的・自律的な学びの実現を目指し、
授業改善に力を入れる。2026年度からは、
DXハイスクール採択校である同校の様々な教育活動の
評価・改善・精選を担うDX委員会の委員長を務める。

ある日の放課後、2年生のクラス担任だった私は、11月に実施された模擬試験の結果について女子生徒Aさんと面談をしました。Aさんの成績は、5教科すべてが高得点で、志望校である難関国立大学には余力を持って合格できそうでした。10余年の教職歴の中で私が出会った生徒の中でも屈指の学力を持つAさんは、より難関の大学を目標にすれば、さらに学力が伸びるはずだと私は確信していました。

いつもの穏やかな笑顔で面談にやってきたAさんに、私は「模擬試験の結果、見た？」と聞きました。Aさんは「はい。よかったですよね」とさらりと答えました。その言葉にうなずきながら私はこう提案しました。「こんなに高い点数が取れるのだから、東大を目指さない？」。するとAさんは「そう言ってもらえるのは、うれしいです」と笑顔を崩さずに答えた後、私に尋ねました。「でも、東大に行ったら、私の人生の何が変わるんでしょうか？」。想定外の質問に私は思わず、「えっ？」と声を出してしまいました。私が予想していたAさんの反応は、「自信がありません」とか、「頑張ってみます」といったものだったからです。次の言葉がなかなか出てこなかった私は、「人生の何が変わるのかってどういうこと？」とAさんの質問に質問で返しました。

「東大も素敵な大学だと思いますが、東大に行ったら私の人生がどう変わるのかが分からないんです。今の志望校が唯一の選択肢ではないことは分かっていますが、現時点で私が一番関心のある大学なんです」。穏やかな表情を変えずに語るAさんに、私は「人生はどうか分からないから、卒業後の選択肢が増えそうな東大に行った方がいいんじゃないの？」と言いましたが、内心は「中身の無いことを言っているな……」と情けなさでいっぱいでした。私は東京大学のことを詳しく調べていたわけではありませんでした。それなのに「東大を目指さない？」と安易に口にしたのは、自分のクラスに学力が高い生徒がいることに浮かれていたからだとして自己嫌悪に陥りました。

面談は、生徒が気づきを得たり、前向きな気持ちになったりするための時間だと考えていました。しかし、私との面談がきっかけでその後、Aさんにそうした変化が生まれたとは思えませんでした。Aさんは当初の志望校に合格しましたが、私にとってはAさんとのあの面談は思い出すと苦しくなる、しかし決して忘れてはならない面談だと思っています。

担任として生徒の進路選択にどうかかわっていこうとしているのか、そして地方の高校に通う生徒の進路観の醸成をどのように支援しようと考えているのかを佐藤先生が語ったウェブオリジナル記事を、ぜひご覧ください。



<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article36719/>

